YAMA NO FUTOKORO

10

観光という魅力の伝え方で、地区の伝統を守っていく。

たかしま農園

高島 賢一

佐賀市大和町松梅地区に生まれ東京の大学を卒業し、旅行業へ就いた高島賢一さん。その後、道の駅大和の店長などを務め、実家の農業を継ぐことになります。代々受け継がれた農地を守りながら、観光業の経験を活かして、2018年には佐賀県初の竹の子の観光農園を開始。さらに地域の魅力あるコンテンツに光をあてようと、仲間とともに古民家を利用したゲストハウスをオープン。松梅地区の農業と農村の営みを次世代へ継承するチャレンジは続きます。

農業 × 観光農園 × ゲストハウス運営

中山間地域の魅力

竹の子の最盛期3月下旬から5月中旬まで、たかしま農園には、県外からたくさんのお客さんが集まります。「竹林のなかに入って、土を掘る体験なんてなかなかできないでしょう。観光農園を通じて、山間部の魅力が伝わればいいね」と高島さんは言います。農家としても精力的に動きます。小ネギの栽培に収穫、冬になれば干し柿づくり。特に、300年以上続く干し柿は、この地区の伝統文化です。そこにゲストハウスの運営も加わります。収入源を増やすことで、収支のバランスが取れ、それが地区の伝統や営みを守ることにもつながります。

取組

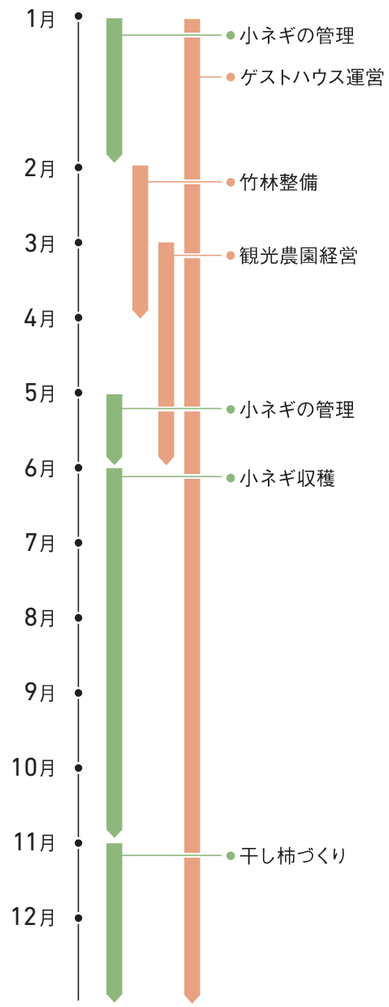
◎取組 1

竹林の整備、竹の子観光農園の経営、小ネギの生産、干し柿づくり。高島さんの農家としての仕事は、年間を通して途切れることはありません。地区のコンテンツをうまく活用しながら、農地の継承を目指します。

◎取組 2

築250年の古民家ゲストハウス「笑仲のやかた」。持ち主に高島さんが活用を提案するかたちでスタートしました。卒業旅行や50、60代の常連客など、利用者も幅広く。ゲストとの交流も高島さんの楽しみのひとつと言います。

年間のスケジュール



活用した補助事業

- さが農村ビジネスサポート事業

【主な取組】タケノコ観光農園の開園に活用。樹木粉砕機導入、受付売店の整備、簡易トイレの整備、冷蔵ショーケースの導入

今後のチャレンジ

小さいけれど、魅力ある観光地へ。

増え続ける空き家や耕作をやめてしまった土地の活用ができれば、地区の未来は見えてきます。今後は、趣の違うゲストハウスを開業することが目標だと言います。「暮らすように滞在し、地区の営みが感じられる観光地に発展させていきたいと考えています」と教えてくれました。